

令和3年度 保育園入園申込みのお知らせ

受付期間:11月9日(月)～12月4日(金)

◆対象児童

- 保護者や家庭が次のいずれかの事情に該当すること。
- 就労している
- 妊娠中または出産後間もない
- 病気：病気、けが、心身に障がいがある
- 病人の看護：同居の親族(長期入院中の親族を含む)を常時看護している
- 火災、風水害、地震などの災害を受け、その復旧に当たっている
- 求職中である(原則3か月。長期間求職している場合は証明が必要)
- 学校などに在学中、または職業訓練を受けている
- 児童虐待を行っている恐れがある、または配偶者からの暴力により、保育が困難である
- 育児休業中で、育児休業にかかる子ども以外の保育が引き続き必要である



◆保育時間の認定

- 両親の就労時間の状況などで、保育時間の認定を受けます。
- 保育標準時間(保育時間が最長で1日11時間)
両親の就労時間が月120時間以上、妊娠・出産、災害復旧、虐待・DVなどの場合
- 保育短時間(保育時間が最長で1日8時間)
両親の就労時間が月120時間未満、求職活動中、育児休業中などの場合

◆申請書配布先および提出先

- 福祉課 子育て支援係
- 宮原振興局 地域振興課 総合窓口係
- 利用希望保育施設

◆必要書類

- ①現況届兼施設利用申込書
- ②障害者手帳写し、診断書 ※本人、同居者が障がい者、保護者の病気などで利用希望の人のみ
- ③雇用(雇用予定)証明書 ※両親が就労(就労予定)している人のみ
- ④課税台帳記載事項証明書
※新規利用申請者で、令和2年1月2日以降に転入した人。ただし、申込書にマイナンバーを記入すれば省略可。

◆結果通知

1月下旬に保護者あてに通知します。町外保育園の希望者は3月になる場合があります。

◆保育料算定方法

保護者の前年分の住民税所得割額で8月分までの負担額を決定し、9月以降は当年分の住民税所得割額で負担額を決定します。

◆保育料納入

口座振替は毎月25日(金融機関などが休みの場合は翌営業日)

◆在園児

現在保育園に入園中で、来年も継続して入園を希望する場合も書類の提出が必要です。
11月上旬に保育園を通じて、または郵送にて通知します。

◆年度途中の申込み

随時受け付けていますが、原則として申込み順で決定します。その他、詳しくはお問い合わせ先までご連絡ください。

【町内の特定教育・保育施設】

○公立保育園	常葉保育所	☎ 0965-62-2232		
○私立保育園	ダーナ保育園	☎ 0965-62-2010	月乃輪保育園	☎ 0965-52-1568
	東光保育園	☎ 0965-52-1823	宮原慈光保育園	☎ 0965-62-4435
	吉野保育園	☎ 0965-62-4130	ひかわ保育園	☎ 0965-62-3211
○私立幼稚園	竜北東光幼稚園	☎ 0965-52-8145	ひかわ幼稚園	☎ 0965-62-4151

【施設等利用給付施設】

- 認可外保育施設…… 浄立寺保育園 ☎ 0965-52-3076
- 病児保育……… 病児・病後児保育施設「ハグ・くむ」 ☎ 0965-53-5121

【お問い合わせ先】 福祉課 子育て支援係 ☎ 0965-52-5852

連載⑥



SDGs ～私たちにできること～



連載でSDGs(持続可能な開発目標)についてお伝えしています。今回は、昨年内閣官房まち・ひと・しごと創生本部による全国の中高生を対象に実施した「SDGsまちづくりアイデアコンテスト」で、最優秀賞を受賞した「(株)氷川のぎろっちょ」のその後の取り組みについて紹介します。

【(株)氷川のぎろっちょ】

熊日宮原販売センター子ども記者クラブの「まちの課題解決・探求コース」の女子中学生5人が、2018年2月に設立。耕作放棄地の解消と、次代を担う人材の育成を目指している。

SDGsは、貧困や不平等・格差、気候変動などの様々な問題を根本的に解決することを目指す、世界共通の17の目標です。



●アイデアコンテスト受賞後の取り組み

受賞したアイデアは、昼間は忙しい子どもや大人が月夜に集まって農業を行うもので、本年3月、受賞から半年間の準備期間を経て「月夜の農業クラブ」を立ち上げました。会員は親子を中心に町内外の32人。第1回目となった4月の活動は、複数のメディアで紹介されました。以来、毎月、満月を含む2～3日間、夜の農作業が行われています。

同社社長で熊本高専3年の竹山実季さん(新村南)は、「参加者から楽しかったという声をいただき、嬉しく思います。新型コロナや台風の影響で活動がしばらくできなかったけれど、これからも続けていきたい。」と話されました。

今後も土地の有効活用のために、新たな農産物の試験栽培、商品開発や販路の拡大を目指して取り組みを継続しながら、氷川町やまちづくりに関心をもってもらう企画も実施していきたいそうです。



▲夜の農作業～マルチ張りってむずかしい

●人材育成の取り組み

同社では、本年3月より町内外の小中学生を対象にした「人財育成塾」をスタートさせました。1泊2日の日程で、地域をじっくり見つけ、地域資源や課題を学ぶ力を身につけてもらうのが目的。9月の第3回目では、「小さい秋を見つけよう」をテーマに、みかん狩りや里山歩きなどを行いました。ドンブリや葉っぱを使って色紙に絵を描いたり、山で見つけた植物や生き物をまもめたりしました。

保護者からは、「普段このような活動になかなか参加できないので、参加して子どもの成長が見られてよかった。」などの声が聞かれました。



▲里山散策～この葉っぱ、黄色くなってる！

●地方創生シンポジウムで発表

日時:11月29日(日)13時～(2時間程度)

熊本城ホールにて無観客開催

内閣官房まち・ひと・しごと創生本部主催のシンポジウム「ワカモノによる地方創生」で、氷川のぎろっちょがこれまでの取り組みについて発表されます。シンポジウムはオンラインでライブ配信されますので、下記アドレスにアクセスしてご覧ください。

<https://www.gov-online.go.jp/tokusyu/COVID-19/symposium/202011/03.html>

【お問い合わせ先】 企画財政課 企画係 ☎0965-52-5850